

54. 「シェイクスピア落語『じゃじゃ馬ならし』に関する一考察」(『武蔵野学院大学大学院研究紀要』第14輯、武蔵野学院大学、令和3年3月)、25頁～46頁
ISSN:1882-8515

本稿は笑福亭松之助の落語『じゃじゃ馬ならし』(1966)について、高座本の存在は明らかではないが、1966年の高座が録音されたCDを基に落語『じゃじゃ馬ならし』を取り上げた。論文の構成は「プロローグ」「1 シェイクスピアと落語」「2 落語『じゃじゃ馬ならし』」「(1) 笑福亭松之助」「(2) 落語『じゃじゃ馬ならし』の構成」「エピローグ」「付録 落語『じゃじゃ馬ならし』」で構成した。落語『じゃじゃ馬ならし』の創作過程については笑福亭松之助本人をはじめ、第三者により記述等が調査で全く見当たらなかったため、松之助の落語観、経歴、当時の『じゃじゃ馬ならし』の上演状況からの推測判断と実際の落語の内容と原作との関係性の分析を行った。落語『じゃじゃ馬ならし』は「幸福」と「降伏」に地口で締められ、全体で約15分という見事な落語に仕上がっている。なお、この本格的な研究は本邦初である。付録として、CDに録音された内容を活字化したものを付けた。